



JASWHS 公益社団法人 日本医療社会福祉協会
Japanese Association of Social Workers in Health Services

東京都新宿区住吉町 8-20 四谷チンゴビル 2F

災害対策本部 (03) 3351-5038 アドレス dsstsw@jaswhs.or.jp



<目次>

1. 災害支援活動協力員募集と寄付金等のお願い
2. 会議の報告及び今後の会議の予定
3. 石巻・現地情報
4. 「祐ホームクリニック」の成り立ち
5. グループホーム的仮設住宅の様子
6. 現地支援活動報告①②③
7. 事務所ボランティアの感想文



<お詫び>

2011年10月4日に会員の皆さまにFAXいたしました文書に訂正がございます。
岩手県医療社会事業協会の依頼による支援は「陸前高田市」ではなく「大槌町」の間違いです。ご迷惑お掛けしますが、訂正の程よろしく申し上げます。

1. 災害支援活動協力員募集と寄付金等のお願い

10月の活動は、10月5日からスタートです。
仮設住宅支援を中心に週末現地で活動できるボランティアを多く募集いたします。
金土日で参加できる方、ぜひご検討ください。

10月のボランティアカレンダー

(10月4日現在)

日付	事務所	現地	日付	事務所	現地	日付	事務所	現地
1[Sat]	1	×	11[Tue]	2	4	21[Fri]	2	4
2[Sun]	休	×	12[Wed]	2	2	22[Sat]	2	5
3[Mon]	1	×	13[Thu]	2	2	23[Sun]	休	5
4[Tue]	3	×	14[Fri]	2	2	24[Mon]	2	5
5[Wed]	2	4	15[Sat]	2	5	25[Tue]	3	4
6[Thu]	2	4	16[Sun]	休	5	26[Wed]	2	4
7[Fri]	2	4	17[Mon]	2	5	27[Thu]	2	4
8[Sat]	3	5	18[Tue]	2	4	28[Fri]	2	4
9[Sun]	休	4	19[Wed]	2	4	29[Sat]	2	4
10[Mon]	1	4	20[Thu]	2	4	30[Sun]	休	4
						31[Mon]	2	4

*数字は必要な人数・○は足りていることを表す。

現地は10月5日から活動になります。

① 支援活動協力員登録人数（10月4日（火）現在）

- ・ 現地支援活動協力員 ： 173名
- ・ 事務所支援活動協力員 ： 92名

皆様お忙しい中のご参加で人員が不足しております。ご協力頂ける方は下記までご連絡下さい。

[災害対策本部（03-3351-5038 又は dsstsw@jaswhs.or.jp）](mailto:dsstsw@jaswhs.or.jp) 平日・土・祝 10～17時

※メールでご連絡の際は、件名に「(現地)または(事務所) 災害支援活動協力員希望」とご記載下さい。当会ホームページに[現地ボランティア応募フォーマット](#)が掲載されています。

② 現地支援活動について

宮城県石巻市の「医療法人鉄祐会 祐ホームクリニック」が活動拠点となります。

平日1日3～4名体制 週末（金曜日～月曜日）1日4～5名体制を予定しています。

- ・ 引き継ぎ等の関係により、前後の移動日を含めず、中3日以上のご参加をお願いします。毎週金曜日に災害対策本部副部長が現地入りし、統括をしていく予定です。

③ 事務所支援活動について

活動日程： 月～土、祝日 の 10時～17時 ※半日での参加も可能です

活動内容： 現地支援活動協力員の派遣調整、現地とのやりとり、電話・メール対応、事務処理
1日4名を目標にご参加頂いております。

財政的に厳しい状況が続いているため、事務所協力員は交通費1200円上限とさせていただきます。

④ 寄付金の振込口座：郵便振込口座

資金が底をつきつつあります。皆様の更なる協力をお願い申し上げます。

口座名義： 日本MSW協会災害支援金

口座番号： 00100-1-89515

支店名： 〇一九（ゼロイチキユウ）店（019）

口座種別： 当座

※他の金融機関からお振り込みいただく場合には下記のようにお願いします。

ゆうちょ銀行 口座種別： 当座預金 支店： 〇一九（読み方:ゼロいちきゅう）店

口座番号： 89515

備考： お振り込みいただく金額に制限はございません。

ご自分のお名前とご連絡先をご記入ください。

お振込手数料は、各自でご負担ください。

*寄付の用途については、当協会の行う東日本大震災災害救援活動に使うことが決定しています。

⑤ 活動内容の掲載について

石巻以外の地域で活動している方や被災者を受け入れている機関などの活動を本紙に掲載したいと思います。ご協力いただける方は[災害対策本部](#)までご連絡ください。

2. 会議の報告及び次回の会議予定

平成 23 年 9 月 28 日 (19 時～21 時) に日本医療社会福祉協会会議室にて災害対策会議が行なわれました。

議題 1. 現地からの報告

1) 活動報告

- ・ 9 月末で全員が遊楽館を退所する予定となった。
- ・ 神奈川県大学病院の会の岩手県大槌町での活動に 4 名参加。生活支援員のサポートを行った。

2) 意見交換

参加した SW の多くが謙遜し、「なにの役に立ったかわからない」と発言するが、まず現地へ行くこと自体が支援である事を認識してもらうこと、役に立つかどうかかわからない、と躊躇せず、まず現地へ出向く事を推奨すること、そのような呼びかけ文をボランティア募集の際も付け加えていく。活動報告書にも、「反省文ではなく、できたこと、考えた事、貢献した事」を記載するようなお願い文を挿入する。日常の職場での業務とは位置づけが違う「災害ソーシャルワーク」であることを文章化しマニュアルに活かしていく。

議題 2 事務所からの報告

1) 活動報告

- ・ 月～土まで 10 時～17 時 事務所では現地のボランティア派遣の下支えをしている。毎日 2 人ずつくらいほしい。5 月～初台リハビリテーション病院が午前中を埋めている。業務としては、現地ボランティアの調整、資料送付、登録、電話対応など。

2) 意見交換

事務所にこれから求められるのはボランティアコーディネート機能だと考えている。ボランティア活動とボランティア SW の最大機能が発揮できるような立ち位置。意見を一旦コーディネーターに集約し、災害対策本部に報告、方針決定への反映。この会議はその意見を吸い上げる場所という位置づけにするのがいいのではないか。

→今後、事務所ボランティアの責任者として、取出 SW が月曜日の AM に事務所に入るようにして、必要な指示を出せるようにする予定。

議題 3 活動に対する意見交換

【10 月以降の活動内容について】

- ・ 10 月 5 日～ 佐藤杏 SW が現地の責任者として入る予定。
- ・ 一原 SW が事務所に週 3 日アルバイトに入る予定。
- ・ 仮設の相談会の回数は数を重ねることが大切。(10 月 8 日、9 日は開催予定)

【マンション・車について】

- ・ 10 月の活動を踏まえてアパートの転居や車の購入も前向きに検討したい。

日 時 : 2011 年 10 月 25 日 (火) 19 時～21 時

場 所 : 日本医療社会福祉協会 会議室

申込み : 不要 (直接会場へお越し下さい)

3. 石巻・現地情報



① 石巻での活動内容 **※状況によって内容が変わります**

- ・ 仮設住宅の巡回及び入居者の相談支援（週末に相談会を開催）
- ・ 遊楽館を退所した方のフォローアップ
- ・ 地域の保健医療福祉機関のニーズ把握と対応
- ・ 福祉関係職種との連携と協働（カンファレンス）
- ・ 経過サマリー作成業務
- ・ 在宅医療を担う医療機関との連携
- ・ グループホーム的仮設住宅での支援

② 宿泊場所

5月23日より、2LDKのマンションを宿泊場所として使用しています。

*JR 東北新幹線 陸羽東線 古川駅より徒歩約9分

*布団はありますが、シーツ・枕カバー、タオルなどはご持参下さい。

③ 現地移動車両

ガリバーインターナショナル社様のご厚意により、当会へ自動車を1台貸与していただいています（保険や車検関係はガリバー社が負担してくださっています）。

現地ボランティアの皆様のご足としてご利用いただけます。

詳細とお願いは、次の通りです。

- ・ 車種 トヨタ「イスト」 ナンバー「野田 501ち 3967」 銀色
- ・ 利用される場合には、安全運転はもちろんですが、車の調子の確認、ガソリンの補給（給油したら協会に請求してください）、および鍵の管理をお願いします。
- ・ 駐車違反・盗難等に注意してください。

④ 携帯電話

ソフトバンク様より、当会へ20台の災害用電話の無料貸し出しをしていただいています。7月1日より、現地および、協会本部はソフトバンクの携帯電話を利用しています。

4. 「祐ホームクリニック」の成り立ち

この度、事務所を置かせていただく「祐ホームクリニック」の成り立ちです。我々は、祐ホームクリニックに所属するSWとしてではなく、ここの事務所の一角をお借りする、という形でお世話になります。活動にあたっては、地元医師会の祐ホームクリニックに対する地元感情なども把握・アセスメントして動く必要があることを覚えておいて下さい。復興ニッポン【日経メディカル オンライン】より抜粋

武藤氏は2010年1月、「医療だけでなく、患者の生活を支えたい」と東京・文京区で在宅医療専門の診療所を開設。1年半で約540人の患者を診察、地元根付いた診療所となりつつある。そんな武藤氏は、今年9月から、東京の診療所の院長職を別の医師に任せ、東京と石巻とで週の半分ずつを過ごす生活を送ることにした。なぜか。

4月から断続的に石巻に支援に入っていた武藤氏は、当初は十分送られていた物資や人的支援が、5月に入って少しずつ減っていくのを感じていた。それに伴い、「避難所におられる方々の思いが、『生きてよかった』から『これからどうなるのだろう』に変わっているのが分かりました」（武藤氏）。

特に、今回被災した地域は高齢化が進んでおり、食事や着替えなど日常生活に必要な動作ができなかったり、認知機能が低下したりしている被災者も少なくなかった。一方で地域の介護施設にはそれらの高齢者を収容できるほどのキャパシティはない。地元の運動施設が、要介護者向けの避難所として用意されたものの、寒い東北の冬を避難所で迎えるのは現実的な解とは思えなかった。

さらには、状況が落ち着けば地域外に避難している要介護者が石巻に戻ってくることも予想される。石巻へは、多くの医療者からの支援の手が差し伸べられていたものの、あくまでこれはボランティア活動にすぎない。中長期的な医療提供体制の整備も急務となっていた。

そこで武藤氏が考えたのが、在宅医療の拠点となる診療所の設置だった。「地域の介護施設に十分なキャパシティがなくても、在宅医療ならば仮設住宅に入居してもらって提供できます。短期的な医療支援から、被災地が自立して医療を提供する仕組みづくりを支援していくべきではないかと思ったのです」。運動施設に避難していた要介護者に対してサービスを提供すれば、診療所を中長期的に維持していけるだけの収入も得られるとの勝算もあった。



「今の石巻にこそ在宅医療が必要」と語る武藤氏。

持続的な医療提供体制の必要性を感じていたのは、武藤氏だけではなかった。今回、復興支援を行うNPOを資金面から支えていた日本財団は、武藤氏に共感し、在宅医療の診療所を立ち上げるために必要な4000万円の資金を提供した。「我々は今回の復興のために30億円以上かけて支援を行っています。ですが、その程度の額で復興すべてをまかなえるわけではありません。そのため、モデルとなる事業にお金を使っていきたいのです。現在の行政のマンパワーを考えると、全面的に行政に頼るのは不可能です。だからこそ、民間の力が必要となる。ただし、民間が行うならば、赤字を出し続けることのないスキームが必要となるのです。武藤先生の試みは、そんな我々の思いとも合致していました」（日本財団 東日本大震災災害支援センター事業・CSR担当責任者の町井則雄氏）。

9月1日、宮城県石巻市に在宅医療専門の診療所「祐ホームクリニック 石巻」がオープンした。院長は武藤真祐（むとう・しんすけ）氏。東大医学部を卒業後、医療機関だけでなく、コンサルティング会社、マッキンゼー・アンド・カンパニーでの勤務経験も持つ異色の経歴の持ち主だ。地元の行政や医師会にとっても、在宅を基本とする武藤氏の提案は歓迎できるものだった。石巻市長の亀山紘氏は、「ボランティアの手も借りながら、なんとか行ってきた慢性疾患を有する患者へのフォローは今後さらに問題となる。在宅医療を石巻で提供してもらえるのは、大変助かる」と話す。



亀山市長と会談し、今回の開設の目的を解説する武藤氏。

また、いくら被災地で医療提供のパフォーマンスが低下しているといっても、外部からの支援によって既存の医療機関に集まる患者が減り、仮につぶれてしまうようなことがあれば、逆にマイナスだ。石巻は在宅医療にまで十分に手がまわる医師が少なく、また、武藤氏が開業した場所も、他の在宅医療を提供している医師とのすみ分けを考慮した場所だった。

当初、武藤氏は、自身が東京で提供している在宅医療のノウハウを提供し、実際の診療所運営は、被災して自身の診療所を失った地元の医師に任せることを考えていた。だが、打診した医師たちは、建物もカルテも失ったことで開業医として働くモチベーションを失ってしまっていたのだ。

「大変な思いをされた先生方にとって、『またゼロから開業する』というのは並大抵の決意ではできません。しかし、地元では在宅医療が必要とされているのは間違いない。そこで、立ち上げは私が行い、半年から1年かけて軌道に乗せてから引き継いでいただける地元の先生を探すことにしたのです」（武藤氏）

だが、武藤氏は東京でも診療所を開設しており、石巻への移住は不可能。そこに手を差し伸べたのが、日本プライマリ・ケア連合学会だ。特定の疾患の専門家ではなく、「プライマリケア」の領域で活躍する医師の集まりである、日本プライマリ・ケア連合学会では、医師免許取得3年目以降の後期研修医を武藤氏のクリニックに2年間継続して派遣することを決めた。このように、学会が1民間医療機関に対して医師を派遣して援助するのはほかに例がない。

その狙いについて、日本プライマリ・ケア連合学会で専従コーディネーターを務める林健太郎氏は、こう話す。

「仮設住宅への入居は、新しいコミュニティが作られていく過程そのものです。そこに介入していくというのはプライマリケア医として重要だと考えています。また、復興のフェーズであっても、若い医師に災害医療を経験してほしいという思いもありました。このような医療の方法や、医療へのアプローチを知ることとは後期研修の先生方にもいい経験になるのではないのでしょうか」

学会が派遣する後期研修医は、武藤氏の留守には診療所を守り、武藤氏が石巻に滞在している際は他の在宅医療を行う開業医を支援する形になるという。これにより、武藤氏は週の半分は東京で臨床に従事できるというわけだ。

町井氏と林氏、そして武藤氏に共通するのは、今回の診療所開設をただ単発の復興支援にとどめるつもりはない、という思いだ。

今回の震災は、高齢化が進んだ地域に、人口減少と医療供給体制の弱体化をもたらした。これは今後、日本のほかの地域でも起こり得る、高齢化の医療問題が先鋭化したものともいえる。現在、厚生労働省は、高齢化と膨らみ続ける医療財政に対応するため、在宅療養を推進している。既に都市部での在宅医療専門診療所を成功させつつある武藤氏が、医療問題が先鋭的に顕在化した石巻でも成功すれば、他の地域に同じモデルを持ち込む場合のハードルが下がるはずだ。

果たして在宅医療は、高齢化が進む日本における医療の解決策となりえるのか。武藤氏の試みは復興支援にとどまらず、今後の日本の医療の試金石ともなり得る。



旧北上川から程近い場所の200坪の敷地に診療所を設置した。ここは奇跡的に津波の被害を免れた場所。200坪と広いのは、集会などコミュニティで使うための集会所も設置するためだ。

5. グループホーム的仮設住宅の様子

石巻市役所の健康推進課、介護保険課、福祉総務課、障害者福祉課、仮設住宅管理室の管理職からなる会議にて、日本医療社会福祉協会に、グループホーム的仮設住宅の運営委託の打診があり、現場を案内していただきました。

トゥモーロビジネスタウン内にある、仮設住宅の様子です。



居室の様子



キッチン・食堂の様子



洗面・トイレ・ランドリーの様子



6. 現地支援活動報告

佐藤 千秋(聖マリアンナ医科大学東横病院)

場所：岩手県大槌町社会福祉協議会

期間：9月9日～9月11日

1. 感想

大槌町社会福祉協議会 復興支援ボランティアセンターでは8月から生活支援相談員事業が始まっており、今回、この事業の側面的支援の目的でボランティアに行きました。

活動内容としては、生活支援相談員の方が住民のニーズ把握と見守りを目的として行っている仮設住宅の個別訪問の同行と、調査結果をまとめる個別情報シート作成を行いました。

また、住民同士の交流と心のケア、ニーズ調査を目的に開催しているお茶サロンにも参加しました。

これらの活動を通して、被災者の方の気持ちや生活の状況を伺い、心理的側面・生活支援が長期的に必要であることを強く実感しました。

また、支援者自身も被災者でありながら、懸命に話しを聞いておられ、その真摯な姿勢は相談業務を行っている者として学ぶべきことも多くあったと同時に、その支援者へのサポート体制が十分ではないことも感じました。

今回の派遣で、継続した支援の必要性を感じたものの、3日間という短期間の活動では、状況把握で終わってしまうのが現状だったように思います。

2. 課題

住民の見守り支援を行う支援相談員の役割は、住民の孤独予防や虐待、要介護などのリスク予防に重要な役割を担っていることがわかりましたが、生活支援の方自身が被災者であること、相談支援の経験が少ないこともあり、支援員の方への支継続支援の在り方が課題であると感じました。

3. 今後参加される方への情報・アドバイス

現地への移動(実際にとった手段、ルート、出発・到着時刻等)

盛岡まで新幹線 釜石まで車(21:30着) 釜石宿泊

釜石(7:00発) 車で大槌町 8:30～活動開始

現地での移動(実際にとった手段)

車(岩手県社会福祉協議会 山舘さんのご協力でお借りしています)で釜石～大槌移動

事前に得ておくとい知識

大槌町での支援状況(ホームページに掲載されている)

「喪失」についての基本的知識

現地へ持参する必需品・不要だった物

必需品は地図・筆記用具 不要だった物は特にありません。

6. 現地支援活動報告

吉成 ひろみ（医療法人社団小羊会 長沼クリニック）

場所：石巻遊楽館

期間：9月16日～9月19日

1. 感想

震災から6カ月、東北道から古川～遊楽館まで、被災の跡がほとんど見受けられないことにまず驚きました。稲刈りを待つ水田、賑わう居酒屋、広くて近代的な遊楽館…。けれど帰る前日に沿岸部に案内していただき、その悲惨さに言葉も出ませんでした。隣接する地域でも津波が来た所と来なかった所の差が非常に大きいとは伺っていましたが、これほどとは思っていませんでした。

もともと千葉県協会3名で参加したところ元千葉県の草水さん佐藤さんもいらして、何の心配もなく活動させていただきました。利用者さんへご挨拶に行くと『あなたはいつまでいるの？あぁ、すぐに帰っちゃうのね』とおっしゃられるのが何とも切なかったのですが、他県SWの皆様とも初めて出会ったとは思えない連帯感を感じながら活動させていただきました。4月の支援活動立ち上げやローラー作戦のお話を現地で伺えたこと、福山先生のグリーンワークもとても心に残りました。自分自身はあまりお役に立てませんでした。参加させていただいたことに心から感謝いたします。

2. 課題

古川のアパートから石巻まで車で40～50分かかり、今後の冬期間の運転は大きな危険を伴うので対策を検討してほしい。

3. 今後参加される方への情報・アドバイス

現地への移動（実際にとった手段、ルート、出発・到着時刻等）

15（木）午前勤務後、勤務先（八千代市）から順天堂浦安病院へ電車移動し、同院櫻井氏に同乗。14時出発で19時古川着。

現地での移動（実際にとった手段）

トヨタ イスト：櫻井氏、佐藤（杏）氏、平野氏が運転

事前に得ておくとい知識

お風呂は温泉利用が快適なので、銭湯セットを用意しておくとう便利。

現地へ持参する必需品・不要だった物

お昼に配給される保存食などがアパートにも沢山あり、朝食はその消費に努めました。

その他

洗濯機の排水口が壊れていました。

4. 要望

遊楽館が避難所としての役割を終えるにあたり、石巻現地のニーズに合わせてどう区切りをつけていくかは、非常に重要であると思います。災害（テロなども含め）が頻発する時代になってきていることを考えると、終結のモデルも必要ではないでしょうか。

今後日本協会に望むことは、この半年間の総括と、それを活かした各地域での災害対策の構築です。

たとえば東京湾岸で大地震が起こったらどうするのか、何ができるのかできないのか、現実的に非常に不安です。各地域でシュミレーションに基づき、他職種とも連動した効率的な活動ができるよう、リードしていただければと望みます。

6. 現地支援活動報告

小川 晋平（群馬県医師会温泉研究所附属沢渡病院）

場所：石巻遊楽館

期間：9月22日～9月24日

1. 感想

私は、今回の活動で初めて被災地に行きましたが、津波が襲った街中も避難所も仮設住宅も実際に行ってみなければ、本当の意味での現実や現状は分からないと感じました。本当に、わずかではありますが、被災地の現実を知ることが出来たと思います。私の場合、遊楽館が9月30日閉鎖という状況の中での活動でしたので、私が担当した避難者を、今まで何人ものSWが対応し、次のSWへと繋いできた「重み」を感じながら活動させていただき、とても貴重な経験になったと感じております。実際に活動した中で最も強く感じたのは、表面的な支援だけでなく、実際の生活に合わせた、きめ細やかな支援が大切であるということです。大変貴重な経験をさせていただき、ありがとうございました。

2. 課題

1名の避難者に対して、何人ものSWが短期間で交代しながら支援するために、記録を読んでも、対応したSWが、どういった視点で、何を根拠に、その援助を行ったのかという大切な部分分からず、対応に苦労しました。記録の書き方や書く内容に簡単なルールやマニュアルがあるとありがたいと感じました。

3. 今後参加される方への情報・アドバイス

現地への移動

自家用車の方へ 東北道は、オービスが多く設置されているように感じました。スピードに気をつけましょう。宇都宮から2車線なので、混雑時はイライラするかも知れません。

電車の方へ 悪天候によっては、古川駅から先の仙石線は不通になる事があるので注意して下さい。実際1名、古川駅で半日以上足止めされてしまいました。

古川のアパートと遊学館までは、活動した3日とも、50分程度でした。渋滞も無かったので、快適なドライブでした。

現地での移動

私の場合、自家用車と徒歩での移動だったので、特に苦労はありませんでした。

事前に得ておくの良い知識

一緒に活動する関係団体の名称や役割等を知っておくと良いと感じました。

現地へ持参する必需品・不要だった物

パソコンの数が少なかったため、自分が使っているパソコンは持参の方が良いかも知れません。スマートフォンは、とても役に立ちました。気温の日差変動があるので、衣類は多めに持参して下さい。

その他

アパートに灰皿がありません。喫煙される方は、携帯灰皿を持参して下さい。

トイレの換気が微妙なので、トイレの消臭剤があると良いかも知れません。

4. 参加を検討されている方へのメッセージ

職場の都合等で参加が難しい方もいると思いますが、不安があっても、参加してみたいなと思ったなら、参加してみましょう。周りに他のSWがいて心強いですし、普段から仲の良いメンバーで参加すれば、安心できると思います。百聞は一見にしかず。

7. 事務所ボランティア感想文

日頃から事務所ボランティアが活動の感想として書き溜めていたものです。

2か月分をまとめて掲載します。

事務所ボランティアの思いや業務のことなど・・・一読ください。

8月1日(月)

芦田(初台リハビリテーション病院)

まだまだ不十分ですが、落ち着いて作業できるようになってきました。新しい作業となると不安ですが、ミスなしを目指して取り組めるようがんばります。

8月3日(水)

市川(初台リハビリテーション病院)

今日は3人のボランティアで活動することができ、とても心強かったです。

一人でできることには限界があるので、今後も複数で活動できるよう期待したいです。

山本(日本社会事業大学専門職大学院)

今日は初めてのボランティアで右も左もわからない状態でしたが、茂田さんが丁寧に教えてくれて安心でした。

茂田(文京学院大学大学院)

約2ヶ月ぶりの参加となりました。これまで初台リハビリテーション病院の方が土台を作ってくださったので、安心して参加することができました。これからも少しずつ前に皆さんで進んでいけることを願います。

8月4日(木)

田玉(初台リハビリテーション病院)

現地ボランティアの応募を新たにいただき嬉しかったです。

山本(日本社会事業大学専門職大学院)

まだまだ不慣れですが、事務所の方々が親切なので安心です。本当にありがとうございます。

8月5日(金)

左右田(初台リハビリテーション病院)

初めての業務で一人だけで思うように進まず、申し訳ありません。本日、現地活動の応募を多数頂き心強く感じました。

8月8日(月)

東(初台リハビリテーション病院)

今日は二人での活動でした。8月は事務所ボランティアと二人で入れる日が増えてきて嬉しいです。

長谷川(自宅)

少し間を空けての活動になりました。現地ボランティアさんからの活動報告のお陰でメディアからは伝わらない現地の状況がよくわかりました。まだまだ現地の支援は必要です。そのお手伝いができれば・・・と改めて思いました。

8月9日(火)

山本(日本社会事業大学専門職大学院)

今日は三回目でしたが、今日も運良く茂田さんに教えてもらえてレベルアップした気がします。しかし、電話の問合せ等を受けて、事務の大事さも感じました。

8月10日(水)

渡辺(藤崎地域包括支援センター)

本日初めてでしたが、行なうことが多いこともあり、慣れず、あたふたしてしまいました。しかし、一緒にボランティアの方や、マニュアル等もあり、慣れてくれば要領を得られると思いました。また来たいです。

8月11日(木)

取出(初台リハビリテーション病院)

ボランティアの皆さま、慣れていてもマニュアルを見て、マニュアルに手書きで更新をお願いします。

8月12日(金)

左右田(初台リハビリテーション病院)

事務所ボランティアの山本さんと二名で心強かったです。マニュアル更新大切ですね。

山本(日本社会事業大学専門職大学院)

今日は取材したいという電話があったそうです。またメールがあるそうですが・・・。社会的にソーシ

ャルワーカーの活動が認められていくのは嬉しいと思います。

8月13日(土)

取出(初台リハビリテーション病院)

何日か一緒に入っている菅原さんとマニュアル変更と改善に少し着手しました。事務所が現地の様子を理解できている場になるように微力ですが、がんばります。

菅原(平川病院)

悩んだり、途方にくれたり、マニュアルを何度も見返している間に1日が終わってしまいました。確認できる仲間がいるとありがたいですが、現地の活動のために、もう少しできるようがんばりたいと思います。

8月15日(月)

藤村(初台リハビリテーション病院)

山本さんがとても頼もしかったです。業務の見直し、マニュアル更新の大切さも教えて頂きました。明日もがんばります。

山本(日本社会事業大学専門職大学院)

藤村さんが作ってくださった、背中をおされ改善案を書かせてもらいました。今までの経緯がわからないため、既に没になった案だったらすみません。

8月16日(火)

藤村(初台リハビリテーション病院)

山田さんのお陰で、未処理案件の対応とボランティア調整が可能となりました。ありがとうございます。一人より二人、二人より三人のありがたさを実感しました。

山田(市川総合病院)

2回目の参加です。午後は一人でおろおろとしているうちに終わってしまいました。午前中に藤村さんに色々教えていただいて勉強になりました。また参加します。

8月17日(水)

東(初台リハビリテーション病院)

今日は三人だったので、作業がスムーズにできました。9月は現地に行くので、事務所とのつなぎになれるようにがんばります。

山本(日本社会事業大学専門職大学院)

今日は先輩ワーカーさんから良いお話が聞けて勉強になりました。これもボランティアのメリットと感謝しています。

8月18日(木)

中山(初台リハビリテーション病院)

今日は午前中一人でしたが、午後から山本さんが来てくださったので心強く思いました。今まで午後が不在になることが多かったので……。でも山本さんも無理のないようにしてくださいね。

山本(日本社会事業大学専門職大学院)

今日は現地の交通手段を調べました。鉄道は本数が少なく、遊楽館までは遠いと思いました。

8月19日(金)

清水(初台リハビリテーション病院)

今日は連日入ってくださっている山本さんと二人だったので作業がスムーズにできました。お疲れ様でした。

山本(日本社会事業大学専門職大学院)

メールの自動振分け好評のようで安心しました。

8月20日(土)

菅原(平川病院)

1週間の間に、9月の予定がだいぶ入っていたので嬉しくなりました。

笹川(初台リハビリテーション病院)

前回の参加から少し間があきました。メディアからはわからない現地の生の声や動きを知ることができ、絵空事ではない緊張感を感じます。本日は新規の方が一人来て下さいました。心強かったです。ありがとうございます。

筒井(戸塚協立第二病院)

現地ボランティアの派遣には色々な事務所の支援があって、なりたっているのだと思いました。

8月22日(月)

田玉(初台リハビリテーション病院)

あっというまに時間がきてしまいました。やり残しがあってすみません。事務所ボランティアの応募をいただいて嬉しかったです。

8月23日(火)

長谷川(自宅)

2週間ぶりの活動となりました。8月を過ぎてからの現地ボランティアの様子が心配でしたが、9月の予定もかなり入っており安心しました。支援が組織的になってきている印象もあり、事務所ボランティアとしても、しっかり連携していきたいと思います。

茂田(文京学院大学大学院)

久しぶりの参加でしたが、皆さんが様々な申し送り方法を工夫してくださっていたので、非常に活動しやすかったです。棚の整理も少しできたので、これからも協力させていただきたいと思います。

8月24日(水)

山本(日本社会事業大学専門職大学院)

今日、初めてニュースレターのホームページアップをしました。今まで現地のことがよくわからないという声も聞いたので、少しは役に立つのではないのかと嬉しく思いました。

8月25日(木)

松永(初台リハビリテーション病院)

1ヶ月以上間が空いて本日入りました。新規応募や問合せの連絡もなく、A・Bファイルチェックができました。途中から3名になったので、とても心強かったです。

逢沢(横浜第一病院)

初台リハの皆さま、そして繋いでこられた皆さま、本当にご苦労様です。久しぶりのボランティアであり役には立てませんでしたが、事務所の皆さまの活動からエネルギーをもらった気がします。また時間を作ってきます。

星(内野クリニック)

本日初めて参加させていただきました。あっという間に時間が過ぎてしまいました。不慣れでご迷惑おかけしますがよろしく願います。

8月26日(金)

取出(初台リハビリテーション病院)

8月の人である山本さんとようやく一緒にできました。現地のこともしっかり調べていらっしやって心強い限りでした。ニュースレター、現地活動報告は徐々に軌道にのってきています。事務所ボランティアは

メールに頼りすぎず、直接電話で即効連絡をしていますか?声をきき合うと安心すると思います。

山本(日本社会事業大学専門職大学院)

先日失敗してしまっていたことがわかり反省です。取出さんや草水さんの声掛けやメールがありがたく感じました。ありがとうございます。

8月27日(土)

笹川(初台リハビリテーション病院)

今日はなんと4人です。幸せでした。取出さんからアドバイスいただいたように、積極的に電話にて調整を試みました。メールを待つよりも早くて確実な気がしました。Voice to Voiceの交流は緊張しましたが、SWの醍醐味のような気がしました。

菅原(平川病院)

せっかく4人いるから・・・と意気込んでみたものの、これまでは遣り残しばかりとっていたところも終わってしまい、まだやれることがないかと探しながら少し途方にくれました。なかなか目を通すことができなかつたものを見る時間ができてよかったです。

星野(有隣病院)

午後はゆったりと事務処理ができました。平日なかなかできないもの等あったら申し送ってください。

茂田(文京学院大学大学院)

土曜日はゆっくり仕事ができ、普段目の届かないところまで作業することができました。4人いたので助かりました。

8月29日(月)

松永(初台リハビリテーション病院)

8月27日と29日に1週間前を切っている現地ボランティアの申込がありました。車両証明の発行が間に合うか心配でしたが、宮城県を担当の方に直接連絡したところ大丈夫とのことで安心しました。

長谷川(自宅)

6月から活動させていただいた事務所ボランティアですが、9月の就職に伴い、本日で最後になると思います。被災者のために何かしたいと思い始めたボランティアですが、時間の経過とともにマスコミ報道が減る中、現地を知り、現地を思う良い機会になったと感じています。常々思うことですが、現地は太く長い支援を必要としています。これからは支援

の形が変わりますが、決して忘れることなく、できることをしていきたいと思います。お世話になりました。

8月30日(火)

松永(初台リハビリテーション病院)

本日は業務量が多く大変でした。9月は連休中の申込が多いです。連休だから来れると応募してきてくださっているので変更調整が難しいと感じました。

伊藤(渋川総合病院)

本日初めて参加させていただきました。松永さんにご教示いただきましたが、実際にやってみるとわからないことがたくさんあり、中途半端になってしまったものが多かったと思い、ご迷惑おかけします。日程調整は難しいですね。

8月31日(水)

星野(有隣病院)

PC 教えていただきながら少々事務処理ができました。来月もよろしくお願いします。

取出(初台リハビリテーション病院)

会議で色々決めたことをすぐに活動反映するのも難しいなと思いつつ、茂田さん、伊藤さんに託します。今後がんばって状況の変化についていきましょう。

伊藤(渋川総合病院)

2日間でしたが、日程調整から色々な手続きと事務所によって現地の活動が支えられていると実感いたしました。茂田さんお世話になりました。また伺いたいと思います。

茂田(文京学院大学大学院)

たくさんの現地・事務所ボランティアの応募を頂いて嬉しかったです。今後も協力して、現地を支えていきたいです。本日は電話対応に追われていました。

9月1日(木)

田玉(初台リハビリテーション病院)

たくさんの方々のご協力でボランティアが成り立っているんだと実感した1日でした。遊楽館で雨漏りがしているそうです。現地の皆さんが早く安心して過ごせることを願っています。

9月2日(金)

清水(初台リハビリテーション病院)

現地ボランティアの問合せや申込の連絡が多く、嬉しく感じました。様々な地域の人と協力していきたいなと思いました。

9月3日(土)

左右田(初台リハビリテーション病院)

本日メール送信ミスで皆さまには大変ご迷惑をおかけしました。申し訳ありません。

9月5日(月)

松永(初台リハビリテーション病院)

急ぎの対応に終われ、午前だけの予定が終日になってしまいました。事務所ボランティアも終日ほしいです。

9月6日(火)

左右田(初台リハビリテーション病院)

初めて政井さんが参加してくださり、感謝します。9月25日~30日の現地活動の応募を頂き、9月はあと少しで一杯になりそうです。お互いに協力をして頑張りましょう。

政井(吉祥寺あさひ病院)

初めて参加させていただきました。要領を得なくて申し訳ないです。現地ボランティアさんの一助となればと思ったのですが、皆さんのエネルギーをいただくばかりです。

9月8日(木)

清水(初台リハビリテーション病院)

2回目の星さんと一緒だったので、とてもとても助かりました。

星(内野クリニック)

本日2回目で午後は1人。様々なことを申し送ってしまい申し訳ありません。清水さんが丁寧に教えてくださり助かりました。まだまだ不慣れで対応一つ一つに戸惑いご迷惑おかけしていると思います。これからもよろしくお願いします。

9月9日(金)

藤村(初台リハビリテーション病院)

メールの呼びかけに対する反応・反響に心温まる思いがしました。多くの方々を支えあって成り立っていることを改めて感じました。

一原（自宅）

2ヶ月ぶりに来たら、何が何だかわからず慣れるのに時間が掛かってしまいました。お休みしていた間、何とか皆さんで繋いでこられたんだと実感しました。これからも少しずつ参加したいと思いますのでよろしくをお願いします。

9月14日（水）

松永（初台リハビリテーション病院）

本日はとても落ち着いていました。ボランティア参加者名簿やボランティア保険申込リストの見直しことができました。

9月15日（木）

芦田（初台リハビリテーション病院）

日誌での申し送りがとても助かります。翌日以降に入るボランティアを気遣いつつ処理して下さっていることをひしひしと感じました。皆さんありがとうございます。

9月16日（金）

芦田（初台リハビリテーション病院）

今日はメールと電話でバタバタした半日でした。午後から初参加の末廣さんを残し仕事に向かうのが、後ろ髪を引かれる思いで一杯です。初めて参加される方の日程調整は慎重にやっていかななくてはと改めて思いました。

末廣（等潤病院）

本日午後から初参加でした。心配して下さった芦田さん、時間が短い中でコンパクトに教えていただきありがとうございます。不安はありましたが、かえって開き直って当番ができました。来週もよろしくをお願いします。

9月17日（土）

菅原（平川病院）

重い内容や口で説明しづらいことを、初台の方々が持ち帰って繋いでくださっていることに感謝です。知っている顔が増えてくると、申し送りも信頼があり、送られるのも楽しくなります。度々は来れませんが、また都合をつけて参加したいです。

星野（有隣病院）

皆さんに助けをいただきながら1日終わりました。

コミュニケーションの大切さを実感しました。

9月19日（月）

東（初台リハビリテーション病院）

10月からの活動内容変更に伴う公文書の見直しに時間を費やした1日でした。祝日だったのと、茂田さんと一緒だったことで落ち着いて活動できました。

茂田（文京学院大学大学院）

マニュアルの更新などができたのでよかったです。2人だと心強いですね。

9月22日（木）

田玉（初台リハビリテーション病院）

台風の影響で現地は交通機関のマヒがあり大変な状況のようです。現地ボランティアさんお疲れ様です。

9月23日（金）

末廣（等潤病院）

今日は茂田さんのご指導のもと、作業を進めることが出来てほっとしています。今日をもとにして、次回も作業や対応ができればと思っています。ありがとうございました。

茂田（文京学院大学大学院）

10月のご応募もいただき、これからも事務所も協力して頑張っていこうと思いました。

9月24日（土）

笹川（初台リハビリテーション病院）

本日の午前はとても落ち着いて過ごせました。新しい方が来て下さり、とても心強く思いました。10月から現地の活動場所が変わりますが、引き続き事務所ボランティアとして、ほんの少しですが力になっていきたいと思いました。東さん、現地の地図をありがとうございました。とても分かりやすくなりました。

田中（岡村記念病院）

静岡から昨日用事があり、本部に寄らせて頂きました。何も力にはなれませんでした。雰囲気だけはつかめました。妻の実家が所沢ということもあり、よく東京には出てきますので、また寄らせていただきます。また現地にも行ってみたいと思いました。数多くのボランティアの繋がりほんの一部ですが見えた一日でした。

9月26日(月)

取出(初台リハビリテーション病院)

10月も少しずつボランティアの応募があり嬉しいです。9月上旬～中旬の事務所ボランティアの山場が去り、今は現地が一番大変でしょう…。10月からは、私ももっと定期的に来所し、ボランティアコーディネーターとして責任を果たしたいと思っています。

9月27日(月)

茂田(文京学院大学大学院)

現地は雨などもあり、大変なご様子でしたが、多くの方のご協力があり、素晴らしいと思います。10月も出来る限り協力させていただきたいと思います。

9月28日(土)

笹川(初台リハビリテーション病院)

朝晩ぐっと冷え込むようになり、現地ボランティアの方々も寒い中体調を崩さず活動をしていただけることを願うばかりです。本日は初回で柳原さんがいらしてくださいました。初めてとは思えない程、テキパキとこなして頂きました。慣れない中大変かと思いますが、ありがとうございました。柳原さんからいただいたねぎらいの言葉にじんわりしました。

柳原(都立東部療育センター)

初めてのボランティアで足手まといになるのでは…とドキドキでした。笹川さんが厭な顔ひとつならず、温かく迎え入れて下さり、救われました。優しく教えていただき、お陰さまで午後のはのびりマイペースで過ごすことが出来ました。ありがとうございました。

9月29日(木)

柳原(都立東部療育センター)

初めてのボランティアで「ただ迷惑を掛けるだけでは…」と怖れながらも勇気を出して参加してよかったです。初台リ八の方に温かく迎え入れて頂けて、ファーストコンタクトの大切さを改めて認識させて頂くことができました。早速、日々の業務の中でも気持ちを新たにファーストコンタクトを大切にしていけます。また今回のボランティアを通して、素敵なS Wさんと巡り会うこともできて新たなエネルギーを頂くことができました。ボランティアを通して、

こんなに沢山の感動を手に入れることができ、思いの外の副産物に感謝です。

富永(大倉山記念病院)

久しぶりの参加でしたが、午前は3人体制という贅沢な時間で不安なく過ごせました。マニュアルの微修正や電話対応で時間が余るくらいの時間でした。10月も1回ですが、頑張ってきました。

9月30日(金)

取出(初台リハビリテーション病院)

現地は本日大詰め。10月以降の活動の公文書も準備できるつもりでしたが、本日もうごきがあるようです。10月3日には会員の皆さまにお伝えできるでしょうか…。

10月1日(土)

藤村(初台リハビリテーション病院)

草水さんより御電話があり、初めてお声を聞きました。片付けを1人でされているとのこと…切なくなりました。

10月3日(月)

取出(初台リハビリテーション病院)

草水さんは6ヶ月の想いも含めて、お片付けをされたのではないのでしょうか…。でも、また次のフェーズが始まります。草水さん、他の会員のボランティアの想いや努力を上手に繋いでいきましょう。